

Ver.2  
H17.6

# T W L 施工仕様書

(新タイプ：d e h a仕様)



カイエー共和コンクリート(株)  
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町441-1  
TEL 027-261-2825

逆L型擁壁（TWL）の施工に際しては、以下の事項を厳守して下さい。

### 3点吊りを厳守して下さい。

（2点吊りでは、dehaが抜ける可能性があります。）

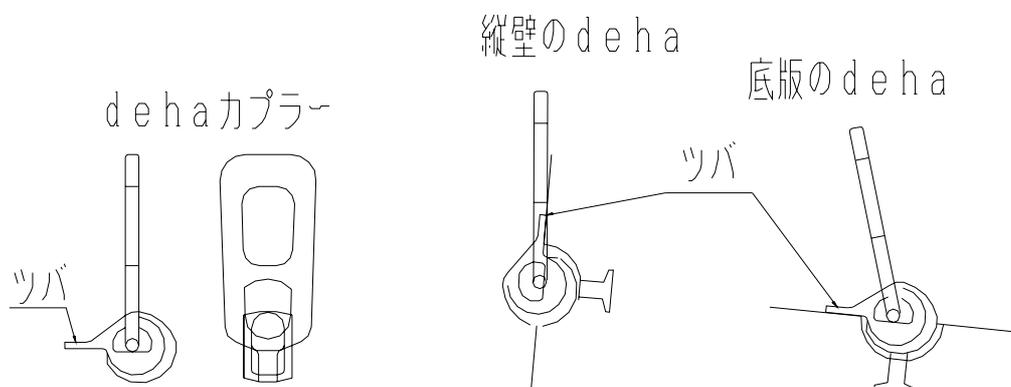
### バックホーによる旋回、運搬は避けて下さい。

（バックホーによる衝撃は考慮していませんので、dehaが抜ける可能性があります。）

但し、法令で定める構造と安全装置を装備し、JCA規格（日本クレーン協会）に合致した、クレーン付きバックホウの旋回については、除くものとする。

### dehaカプラーは、ツバの向きをワイヤーロープが引かれる方向にセットして下さい。

（ツバの向きが逆方向の場合には、dehaカプラーが外れる可能性があります。）



以下の内容は標準的な施工方法を記載しておりますので、特殊製品の場合など現場の状況に応じた機種・機材の選定を行なって下さい。

## 1. 対象製品サイズ及び製品重量

製品サイズ	製品重量(kgf)L=2m		製品サイズ	製品重量(kgf)L=2m	
	紋様	無地		紋様	無地
50WF	458	417	180WF	2,192	2,090
60WF	513	467	190WF	2,335	2,231
70WF	592	543	200WF	2,479	2,370
80WF	670	617	210WF	2,623	2,511
90WF	773	717	220WF	2,721	2,605
100WF	853	793	230WF	2,948	2,822
110WF	1,142	1,071	240WF	3,054	2,927
120WF	1,233	1,160	250WF	3,174	3,043
130WF	1,362	1,284	260WF	3,293	3,156
140WF	1,490	1,410	270WF	3,390	3,250
150WF	1,582	1,497	280WF	3,486	3,344
160WF	1,711	1,621	290WF	3,596	3,448
170WF	2,093	1,996	300WF	3,699	3,548

## 2. 必要作業機材（製品の吊り上げ）

製品の据付けに必要な機材は、以下の通りです。

なお、製品重量が2,000kgf超過の場合は車上渡しとなりますので、荷降ろしの際に吊り上げ機械を準備して下さい。

ワイヤーロープ及びシャックル（施工現場準備品）

- ・ワイヤーロープ：3本
- ・シャックル：3個

下表のサイズを標準とし、現場条件により安全なものを選定して下さい。

製品サイズ	ロープ長 (m)	ロープ径 (mm)	シャックル の呼び
50WF～100WF	2	10	12
110WF～160WF	2	16	18
170WF～220WF	3	20	22
230WF～260WF	3	20	22
270WF～300WF	3	22	24

1)ワイヤーロープ径は、JIS G3525（6×24A種）の破断荷重に対し、安全率を6倍として選定しています。

2)シャックルの呼びは、JIS B2801のバウシャックル(BC)、ストレートシャックル(SC)の使用荷重より選定しています。

**注意：**ワイヤーロープ及びシャックルは、施工現場で用意して下さい。  
 なお、材質等により使用荷重が異なりますので、注意して下さい。  
 ：吊上げ時の水平を確保するため、レバブロック等を準備して下さい。

吊り具（当社貸出し）

- ・dehaカブラー；3個

製品サイズ	deha吊り具
50WF～160WF	2t用
170WF～300WF	4t用

### 3. 施工手順

#### (1) 吊り具の位置及び取付け方法

吊り具の取付け箇所は、下図のように2 m製品の場合は縦壁2箇所、底版1箇所です。

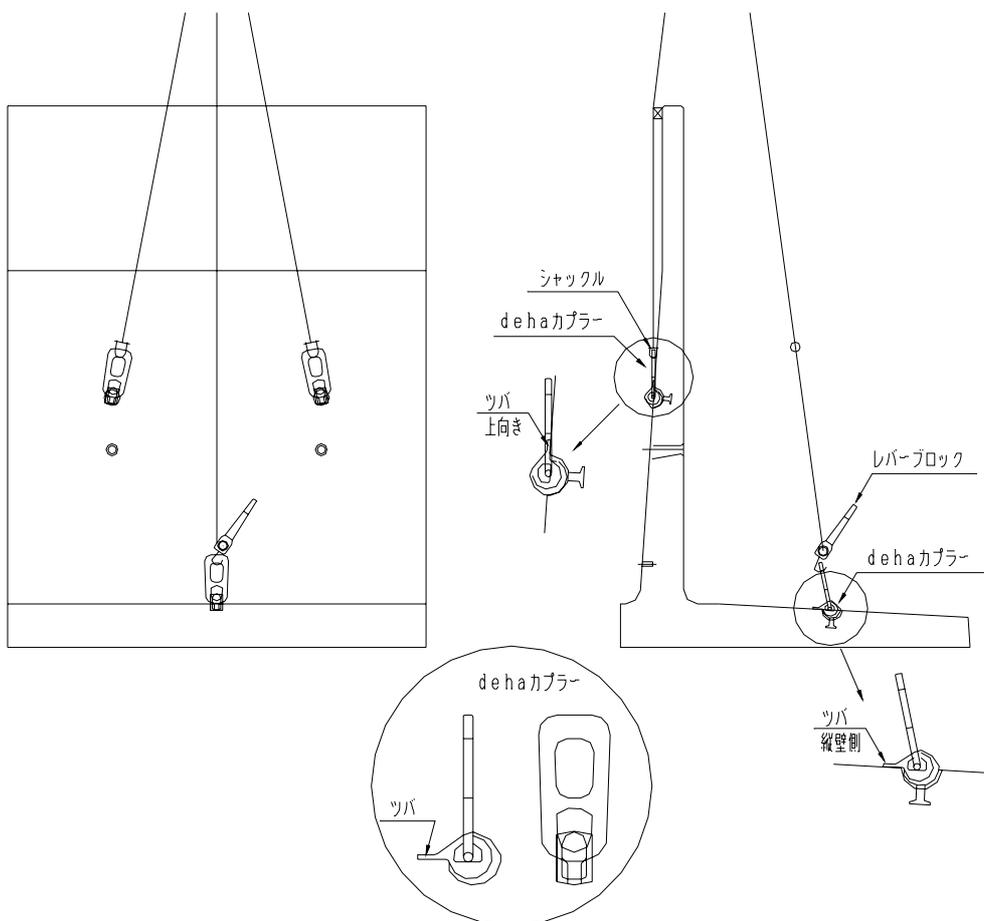
なお、1 m製品の場合は縦壁1箇所、底版2箇所となります。

dehaカプラーは、ワイヤーが引かれる方向に向けてセットして下さい。縦壁は上向き底版は縦壁側とし、ツバが製品面に接していることを確認して下さい。

dehaカプラーにシャックルを用いてワイヤーロープをセットして下さい。

クレーンのフックは、大(親)フック、小(子)フックの両方用いて下さい。フックが1本の場合は、底版部のワイヤーロープと吊り具の間にレバーブロック等を用いて、製品が水平になるようにして下さい。

縦壁側のワイヤーロープは、製品天端に当たらないようにカイ物等をかませて下さい。



## ( 2 ) 製品の吊り上げ及び据付け手順

吊り上げ機械は、能力・ブーム長・足場状態等を検討して安全な機械を選定して下さい。

製品の直下及び危険箇所には、人は入らないで下さい。

急旋回・急上昇下降は絶対に行なわないで下さい。

製品の目地間隔は 0 mm を基準として下さい。

高低の微調整は調整モルタルを使用して下さい。

製品の据付けの良否は、基礎面の均平度に大きく作用されますので、入念に仕上げて下さい。

過度なモルタル調整を行なうと、据付け後に製品が動くようなこともありますので、注意して下さい。

製品施工展開図が用意されている場合（特殊製品仕様）は、製品No. 或いは形状寸法を図面と照合して、所定の位置に据付けて下さい。

壁面の接続ボルトは、遊びのない程度まで締付けて下さい。

過度に締付けますと製品が動きますので、注意して下さい。

## ( 3 ) 目地モルタル詰め

目地部分を水洗いし、付着している泥等を取り除いて下さい。

設計配合に従い、固練りモルタルを突き棒等で目地間隙部によく詰め込み、目地コテにて丁寧に仕上げて下さい。

又、目地部以外に付着したモルタルはきれいに取り除いて下さい。

## ( 4 ) 背面土砂の埋め戻し

設計基準（まき出し厚、締め固め方法）に従い丁寧に埋め戻して下さい。